
台本にない演出

秋名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

台本にない演出

【Nコード】

N6237B

【作者名】

秋名

【あらすじ】

ある日、劇場の貸衣装屋としてバイトをする光達の劇場に8人の小さな劇団が予行練習をするためにやってきた。そこで起きる残酷な展開。しかし光達はあるものを見つけてしまったために・・・

第一話〜プロローグ〜

第一話〜プロローグ〜

夏休み初日。

AM11:00

「今日からここで働くことになりました、神崎光子と言います。どうぞよろしくお願いします」

丁寧な挨拶をしているこの男。

この男こそが主人公である、かんざきひかる神崎光である。

わざわざリクエストに答えて、かわいらしい声を裏声で出している。こんなに真面目に挨拶をしているのに、周りの人たちは笑いを堪えているようにも見える。

「ププププ・・・ダーハツハツ！もーダメだ！我慢できねえ！アハツハツハツ！」

最初に笑い声を吹き出した男。

主人公の光の友達である、おひなたけんじ小日向健吾である。

「そんなに笑うなよなー。せっかく決まったと思ってたのに」

「そうだよ！笑うなんてダメだよ！」

横から健吾のことを指差しながらしゃべっているのは、ひとつ上の先輩の、さくらんぼあまや桜木綾香先輩である。

この3人は、高校の時の生徒会の仲間であり、生徒会長に綾香先輩、副会長に光、副書記に健吾、という役割で当選した。生徒会の他の役員が、少しネクラすぎる人間が多かったために、3人だけが仲良くせざるを得ない状況下で、仲良くなった仲である。大学に進学した今でも、男女の差など関係なしに仲良くし続けている。

「で、でもよ！この格好って・・・アヒヤヒヤヒヤ！」

気色悪い笑い方だ。

「ごめんね。光君の服をおばさんが濡らしちゃったから・・・」

「いえ、いいんですよ。一回こーゆー服も着てみたかったから気にしないでください」

「そう言ってもらえるとおばさんも助かるわ」

「ブーツ！ハツハツハツ！」

「ちよつと誰かこいつを止めてくださーい」

綾香先輩が誰もいない空間に向かって言った。

「いい加減にしてくれよ・・・」

光は呟いた。実は光もこの格好は恥ずかしかったのだ。でも服がないなら仕方ないと思っただけである。そしてちゃんとそれらしく挨拶もしたのに・・・

光は改めて自分よりも大きい鏡を見た。

そこに映っていたのは、ベースが黒で大きく白いフリフリのレースのついたスカートを身につけ、上にも黒をベースとした白いフリフリのレースがついた服を着込み、その上からレースたつぷりのエプロンを身につけ、「せっかくだから・・・」とおばさんがくれた白いカチューシャつけた自分がいた。

つまり光は、メイド服なるものを着ているのである。

これは恥ずかしい・・・。

そしてなぜこんな服があるのか。なぜならここは演劇場の貸衣装屋なのである。

ここの仕事は、この演劇場に来たお客さんに体験として着てもらったり、実際に演劇をする人たちに実際に服を貸したりしている。

「って今思っただんですけど、他にも服ってありますよね？」

おばさんに向かってズバリと聞いてみた。

「ギクリ・・・」

相変わらず古いリアクションだなあ・・・と光は思った。

「まったく。よく考えてみればここって貸衣装屋じゃないですか。服なんていくらでもあるでしょーに」

「ギクギクリ・・・」

「はぁ・・・まあいいんですけどね。とりあえず他の服貸してくださいよ」

「ん・・・これでいいかい？」

おばさんが差し出したのは、男のウエイトレスが着るような蝶ネクタイの制服だった。

「あゝちょうどいいですね。それにします」

「じゃあ5000円ね」

と言って手を差し出すおばさん。

「は？」

「だから5000円だよ。貸し衣装屋だからねえ」

「じゃあこれは？」

光は自分の着ているメイド服を指差した。

「それはおばさんからのサービスだよ・・・ひっひっひっ」

「ホント負けず嫌いなところは変わりませんね」

「変わらないことはいいいことだろ？」

「それもそうですね」

「すいませーん！」

「ほらお客さんだよ。早く行ってあげな」

「この格好で行くんですか？」

「当たり前だよ！貸衣装を着ていない店員はダメなんだよ！」

「そんな怒らなくても・・・分かりましたよ。行きますよ」

ここはコスプレ屋じゃないだろ・・・

こののほほんとしている時、まだ誰もショーが始まることは知らなかった・・・

第一話〜プロローグ〜終

第一話〜プロローグ〜（後書き）

連載にしていく予定なので、興味を持った方は辛抱強く見守っていただきます。

コメントとかいただけると光栄です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6237b/>

台本にない演出

2010年10月12日04時47分発行